特定非営利活動法人　海苔のふるさと会　会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース85号

令和4年度 催し物

感染防止対策を徹底した上で、さまざまな催し物を開催します。
夏休みは子ども向けの体験学習が充実しています。
みなさまのご参加をお待ちしております。

開催日			催し物	対象	受付開始日
月	日	曜			
4	2	土	大森の伝統を学ぶ海苔つけ体験	小３以上	満員御礼
	24	日	緑のカーテンを編もう	小５以上	3月21日（月祝）
5	22	日	海苔でお絵かき「海藻おしばづくり」	だれでも	4月21日（木）
6	12	日	あみあみペットボトルホルダーづくり	小５以上	5月21日（土）
7	24	日	自然素材でフォトフレームづくり	小３以上	7月10日（日）
	27	水	浜辺の生き物探検隊	小３以上	
	31	日	自由研究で海苔を調べよう	小３以上	
8	4	木	タペストリーをつくろう	小３以上	
	7	日	フジツボを観察しよう	小３以上	
	12	金	浜辺の生き物探検隊	小３以上	
	22	月	貝がら工作	小学生以下〔幼児は保護者同伴〕	
	24	水	貝がら工作		
9	11	日	海苔簀づくり	小３以上	8月21日（日）
10	2	日	海苔簀づくり	小３以上	
	15	土	浅草海苔のふるさと大森を歩く	小５以上	9月21日（水）
	30	日	(仮)海苔の船づくりを知る講座	小学生以上	
11	23	水祝	海苔つけ体験	小学生以上	10月21日（金）
	27	日	大森の伝統を学ぶ海苔つけ体験	小３以上	
12	4	日	海苔つけ体験	小学生以上	
	11	日	大森の伝統を学ぶ海苔つけ体験	小３以上	
1	8	日	海苔つけ体験	小学生以上	12月21日（水）
	29	日	大森の伝統を学ぶ海苔つけ体験	小３以上	
2	5	日	海苔つけ体験	小学生以上	
	25	土	大森の伝統を学ぶ海苔つけ体験	小３以上	
3	11	土	海苔つけ体験	小学生以上	2月21日（火）
	21	火祝	大森の伝統を学ぶ海苔つけ体験	小３以上	

■申込方法■

上記の催し物は事前申込制です。
受付開始日の午前9時から、電話にて先着順で受付けます。土日祝日も受付けています。
催し物の詳細は、大田区報または当館公式サイトをご覧ください。

申込み・問合せ先：大森 海苔のふるさと館　電話：03-5471-0333

（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、催し物は中止または変更となる場合があります。）

年間の催し物

主な催し物を紹介します。

■緑のカーテンを編もう　（9:30～、13:30～）

ゴーヤなどを育てるネットを手作りします。

■海苔でお絵かき「海藻おしばづくり」

（10:00～、14:00～）

ノリや近くの浜辺で採れた海藻で絵を描いて、海藻おしばに仕上げます。

■あみあみペットボトルホルダーづくり

（13:00～16:00）

海苔網の編み方を応用して、ペットボトルを入れるネット状のホルダーを作ります。

■浅草海苔のふるさと大森を歩く

（13:00～16:00）

浅草海苔の一大生産地だった大森の海辺エリアを巡り、海苔に関する史跡などを見学します。

■海苔つけ体験　（10:00～11:30）

生海苔から乾海苔を作る体験です。

■大森の伝統を学ぶ海苔つけ体験

（10:00～12:00）

大森の海苔養殖の歴史や海苔づくりの作業のお話を聞き、伝統の海苔づくりの手わざを体験します。

夏休み子ども向け体験学習会

■自然素材でフォトフレームづくり

（13:00～15:30）

植物のヨシを編んで、貝がらで飾りつけたフォトフレームを作ります。

■浜辺の生き物探検隊

（9:30～12:00）

浜辺の生き物の観察をして、身近な海の環境を学びます。

■自由研究で海苔を調べよう　（13:00～16:00）

海苔づくりの歴史のお話や道具の体験、質問タイムなど、海苔について学びます。

■タペストリーをつくろう　（13:30～15:30）

海の紐の結び方を使ってタペストリーを編みます。

■フジツボを観察しよう

（13:00～15:30）

海に沈めた板に付いたフジツボを調べます。動きを観察したり、違いを調べたり、実験や観察をします。

■貝がら工作

（9:30～、13:30～）

自然の貝がらを使って箱の中に水族館を作ります。

ミニイベント

どなたでもご参加いただけます。家族連れやお友だち同士でお気軽にご参加ください。

■のり☆のりクイズ

4月29日（金祝）～5月8日（日）

■五月人形の飾り

5月の端午の節句前後。
こいのぼりも上げます。

■ひまわりの種配布

4月29日（金祝）～5月8日（日）
なくなり次第終了。

■ひまわりプロジェクト
～種まきの巻～

5月3日（火祝）～4日（水祝）
①13:30～14:00
②14:00～14:30
③14:30～15:00
※当日整理券配布。先着順。

■ハーブの配布

6月18日（土）～19日（日）
9月17日（土）～19日（月祝）
なくなり次第終了。

■展示室で浜辺の生き物をさがそう！

6月と9月の土日祝日

■七夕の短冊づくり

7月3日（日）
※当日整理券配布。先着順。

■のり検定（海苔のワークシート）

7月23日（土）～8月31日（水）

■お雛様の飾り

2月から3月の桃の節句まで

※大人の紙芝居と親子で昔遊びは、当面の間、中止します。

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、催し物が中止、または変更となる場合があります。公式サイトなどで最新情報をご確認ください。

海苔のふるさと会 会員募集中!!

当館の活動を支援してくださる会員を募集中。
会員には年6回、このニュースをお届けします。
詳細は電話またはホームページにて。

特定非営利活動法人　海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」85号
令和4年4月1日発行
編集・発行　特定非営利活動法人　海苔のふるさと会
連絡先　東京都大田区
平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347

特定非営利活動法人　海苔のふるさと会　会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース86号

ふるさと館を使いこなそう！館内施設のご案内　一部再開！！

約2年間、感染症対策として一部の利用を制限していましたが、令和4年4月より対策を講じた上で部分的に利用を再開しています。そこで、今回はだれでもご利用いただける館内の施設をご紹介します。

今後は、感染状況を見ながら段階的に利用の制限を解除する予定です。ただし、状況によって再度利用中止をする場合もあります。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

1階

ふるさと館情報コーナー

公園周辺で見られる季節の生き物の写真や、今日の潮などを掲示しています。

のりのり情報紹介

ふるさと館のチラシやニュースなど、ふるさと館発信の情報があります。

お魚水槽

水槽が2つあり、東京湾やふるさとの浜辺などで見られる魚がいます。10年以上水槽にいるウナギが人気者です。

ライブラリー

海苔関係・自然関係・大田区刊行物などの参考図書を閲覧できます。

貸出やコピーサービスはありません。

昔の海苔づくりの映像

約13メートルの海苔船に乗った元海苔生産者が孫に海苔づくりの一年間の作業を説明する約7分間の映像が流れます。

だれでもトイレ

車いすの方やおむつ交換、オストメイトにも対応しています。授乳室としてご利用いただくこともできます。

2階

展示室

国の重要有形民俗文化財に指定された海苔生産道具を展示しています。楽しみながら学べるハンズオンコーナーもあります。

大田海苔劇場

3つのからくり劇場で大田区の海苔の歴史を学べます。アニメ風のキャラクターが楽しく解説してくれます。

3階

展望コーナー

ガラス越しにふるさとの浜辺公園が一望できる休憩コーナーです。羽田空港発着の飛行機が見えることもあります。また、飲み物の自動販売機があります。以前1階にあった、他施設や博物館のチラシコーナーは、こちらへ移動しました。

テラス

季節の花を楽しめる「天空ガーデン」があります。年2回、参加者の方と一緒に植え替えをしています。

※現在、館内での飲食はご遠慮いただいております。距離を保ち、約30分を目安に譲り合ってご利用ください。

企画展　写真家の卵がとらえた 海苔と共に生きる大森の人々

令和4年4月19日（火）～8月14日（日）

今回の企画展では、大田区在住の写真家日高勝彦氏が大学時代に撮影した写真を展示しています。

昭和30年代、日高青年は大学で写真を学んでいました。卒業制作の題材を求めて、大森の伝統の地場産業である海苔養殖と出会います。写真家を目指していた青年の目に映った、海苔と共に生きる大森の人々の姿をご覧ください。

おすすめ① 浜の活気をリアルに表現

海苔船のエンジン音が聞こえてきそうです。海苔採りに向かう浜の活気が伝わってきます。

うっすら雪景色の中で一斉に出漁する海苔船
昭和34年ごろ　　日高勝彦氏撮影

おすすめ② 大森の日常風景は海苔と共に

海苔漁師の作業風景が日常に溶け込んでいたことが感じられる一枚です。

近所の人々が行き交う道端で海苔網を編む
昭和33年夏　　日高勝彦氏撮影

略歴

日高　勝彦（ひだか　かつひこ）

昭和11年生まれ
日本大学芸術学部写真学科卒業
共同通信社の報道写真カメラマンを経て
主に建築写真、広告写真を撮る
日本写真家協会会員（JPS）

企画展では、主に昭和33（1958）年から34(1959)年にかけて日高氏が撮影した大森の海苔養殖の写真56点を展示しています。

※下記の本を参考にさせていただきました。

日高勝彦『ヒコウキとシャシンキとテニスとハーモニカ』（2020）

日高勝彦写真集『大森　海苔漁の原風景』（2013）

新職員のごあいさつ

田辺　友美

幼い頃から美術館や博物館で学ぶことが好きで、今も休日は美術館で名作に触れることが趣味です。

大学では地域の伝統、文化を残していくことに関心があったため公共政策を専攻していました。学びの中でも、地域の特色や文化を伝承していく「博物館」は地域との繋がりで重要な存在であると実感しました。

大森、海苔づくりの歴史と伝統、先人達の思いを継承していくことができるよう日々精進してまいります。よろしくお願い申し上げます。

海苔のふるさと会 会員募集中!!

当館の活動を支援してくださる会員を募集中。
会員には年6回、このニュースをお届けします。
詳細は電話またはホームページにて。

特定非営利活動法人　海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」86号
令和4年6月1日発行
編集・発行　特定非営利活動法人　海苔のふるさと会
連絡先　東京都大田区
平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347

特定非営利活動法人　海苔のふるさと会　会報
大森 海苔のふるさと館 ニュース87号

新収蔵資料の紹介　昭和から令和へ受け継ぐ道具たち

昭和38（1963）年の春に最後の海苔採りが行われてから、間もなく60年が経とうとしています。建物の老朽化や世代交代が進み、荷物の整理などをきっかけに海苔の道具が寄贈されることもありました。平成30（2018）年から令和3（2021）年までに新たに寄贈された資料の一部をご紹介します。

元海苔生産者の敷地の写真

元海苔生産者が、母屋から自宅の敷地を撮影した2枚の写真です。畑は冬には海苔乾し場になります。2枚にまたがっている黒い小屋は、ストーブで海苔を乾燥させる海苔乾燥小屋です。家の敷地は600坪でした。海苔生産者は、海苔を乾すための広い敷地を持っていました。

内川の支流と沢田橋の写真

海苔生産が終了した昭和40年代に撮影したものと思われます。写真の右端にある建物が元海苔生産者の自宅です。目の前の道路と並行して内川の支流が流れています。中央に見える橋は沢田橋です。現在、川は暗渠になり橋の欄干だけが残っています。

袢纏（はんてん）の布

前襟の「たなか」の文字

背中の「金剛丸」の文字

袢纏を仕立てるために染工場（紺屋）で染めた布です。苗字の「たなか」と船の名前「金剛丸」の文字が染め抜かれています。苗字は前襟に、船の名前は背中に仕立てます。

高橋染工場は、江戸時代末ごろに池上一丁目で創業し、現在も藍染めの袢纏や浴衣、手拭いなどの布を染める染色業を営んでいます。「金剛丸」の独特のデザインは、下絵師が手がけました。

現在も美原通りで営業している山崎屋などが、袢纏の仕立てをしていました。

ボータと股引（ももひき）

元海苔生産者が着用していた衣類です。

ボータは冬の海苔採りなどの防寒着です。布を重ねて厚手にし、襟元までしっかり閉じて風が通らないように仕立てています。濡れないように袖をまくるので、袖は薄手で短めになっています。股引は男性用の下衣です。

入札札

これは、仲買人が入札の金額を書くための札です。

海苔が乾し上がる午後になると、入札のために仲買人が連れ立って生産者宅を回りました。この入札方法を庭先入札といいます。一番高い金額を記入した仲買人が落札しました。札には仲買人の家印が押されています。

温度計

昭和20（1945）年以降、悪天候の日にも海苔乾しができる乾燥小屋が普及しました。小屋の中のストーブで石炭やコークスを燃やし、その熱で海苔を乾しました。温度計の右下には、「石炭・コークスのご用命は」と書かれています。これは乾燥小屋のストーブの燃料のことです。

表彰状

昭和25（1950）年3月に行われた第二回大田区乾海苔品評会の一等の賞状です。左下に品評会が大森駅にあった白木屋で開催されたことが記されています。

アサクサノリの標本

植物の調査研究家が、昭和28（1953）年3月6日に大田区平和島沖で採集したアサクサノリの標本です。当時は大森で海苔養殖が行われていたので、そこから分けてもらったものでしょうか。長きにわたって東京湾や相模湾など近隣で海藻を採集し、124点の標本を作製しました。

海苔下駄

海苔は、海に建てた木ヒビや竹ヒビに海苔の胞子を付着させて育てました。浅瀬に木ヒビや竹ヒビを建てる際に履いたのが海苔下駄です。深さに合わせて異なる高さのものを使いました。水中で浮かないように、重りとして石をくくり付けています。

木ヒビは大正期中ごろまで、竹ヒビは昭和20（1945）年ごろまで使われていました。

船模型

所蔵者は元海苔生産者で、東糀谷の南前堀の河岸に海苔船を係留していました。昭和54～55（1979～1980）年ごろ、羽田の元船大工の平林作造氏にこの船模型を製作してもらいました。

平林氏は、昭和8（1933）年から羽田の多摩川沿いで船大工を営んでいました。海苔の船や漁船などを造船していましたが、漁業権放棄で船の新造がなくなったため廃業しました。その後は、自身が手がけた船の模型造りを続け、学校や公共施設などに寄付しました。大田区立郷土博物館にも平林氏の船模型が複数保管されています。

企画展「新収蔵品展」では、今回のニュースでご紹介した資料のほかにも、海苔に関する資料を展示しています。また、海苔に関する道具や昔の街の風景の写真などお持ちの方からのご連絡をお待ちしております。（五十嵐）

企画展

新収蔵品展 ～昭和から令和へ受け継ぐ道具たち～

会期：令和4年8月16日（火）～ 11月20日（日）

ただし9月20日（火）、10月17日（月）は休館

海苔のふるさと会 会員募集中!!

当館の活動を支援してくださる会員を募集中。会員には年6回、このニュースをお届けします。詳細は電話またはホームページにて。

特定非営利活動法人　海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」87号
令和4年8月1日発行
編集・発行　特定非営利活動法人　海苔のふるさと会
連絡先　東京都大田区
平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347

特定非営利活動法人　海苔のふるさと会　会報
大森 海苔のふるさと館 ニュース88号

竹ヒビを海に建てるまで

当館では、毎年大森ふるさとの浜辺公園（以下、ふる浜）にかつての海苔養殖風景を再現しています。その活動の一環として、海苔養殖の道具「竹ヒビ」を大田区内で刈り取った竹で作製しています。竹ヒビとは主に大正期半ばから戦後まで使われていた道具で、昔は竹ヒビの表面で育った海苔を素手で収穫していました。今回は竹ヒビを海に建てるまでの作業の様子をご紹介します！

竹ヒビ

竹ヒビを海に建てたところ

一、竹切り

竹ヒビに使う竹を刈り取ります。どんな竹でも良いというわけではなく、比較的若くて、丈夫な竹を選びます。竹ヒビのサイズに合わせて竹を切り揃え、束ねて運びます。
ここ数年は東京港野鳥公園にご協力いただき、2月ごろに竹を刈り取らせてもらっています。

二、アク抜き

新しい竹にはアク（油分）が多く、海苔が付きにくいため、海に沈めてアクを抜きます。8月上旬ごろからふる浜に沈めて、約１か月後の9月上旬ごろに引き上げます。
しばらく海に漬けていると汚れが付くため、キレイに洗浄します。

三、ヒビごさえ

竹ヒビの形にしていく作業を「ヒビごさえ」と呼びます。次のような手順で作っていきます。

～竹ヒビの作り方～

①下の枝を削ぎ落とす

根元側にある枝をヒビ鉈（なた）で削ぎ落とし、海底に差し込みやすくします。落とした枝は捨てずに残しておきます。

②根元をとがらせる

海底に埋まる根元の部分はヒビ鉈でさらにとがらせて、海底によく刺さるようにします。また、一部分だけをえぐって、くぼみをつくります。

③上部の枝を増やす

①で切り落とした枝を竹の上側に取り付けます。海苔はこの枝に付いて生長するため、海苔がたくさん付くように枝を増やします。ねじりん棒という道具で針金を絞めて枝を固定します。どこかに偏らないように、全体を見ながらまんべんなく取り付けていきます。

④返しを結びつける

②でえぐったくぼみ部分に荒縄を結びつけて、竹ヒビが海底から抜けないように返し（アゴ）を作って完成です。このとき使う縄は植物性のため、春のヒビ抜きの頃には朽ちていてヒビ抜きに支障はありません。

四、ヒビ建て

竹ヒビが完成したら、いよいよふる浜に竹ヒビを設置します。振り棒と呼ばれる道具を使って海底に穴をあけ、竹ヒビを差し込みます。ふる浜では冬に北風が強く吹くため、風に逆らわないように少し南側に傾けて設置します。ふる浜には、台風の発生が落ち着く10月下旬ごろ、公園からよく見える位置に建てています。

10月下旬ごろに建てた竹ヒビは、だいたい4月ごろまでふる浜でご覧いただけます。かつて大森の海に広がっていた風景を少しでも感じていただけたら幸いです。

当館では地域の元海苔生産者から当時の技術を学び、海苔の一大生産地であった地域の歴史を伝えています。職員のみならず、ボランティア「はまどの会」のメンバーも活躍しています。一緒に活動していただける仲間を募集していますので、お気軽にお問合せください。

※今回ご紹介した内容は一例で、実際には元海苔生産者のお宅それぞれのやり方があります。

（滝本）

当館で収蔵している、海苔生産をしていた時代の写真を紹介します

タイムスリップ！街の風景

潮見橋から臨む旧呑川の河岸
昭和38（1963）年1月1日撮影

現在の同じ場所の風景

上の写真は旧呑川にかかる潮見橋から上流を臨む風景です。川の右側が現在の大森東5丁目、左側が大森南3丁目辺りです。河岸には海苔船が係留され、右端には海苔乾し場も見えます。大森では家の敷地に海苔乾し場を持っていましたが、生産量が増えると乾し場が足りず河岸にも海苔を乾すようになりました。高い建物はほとんど見当たらず、遠くの電柱もよく見えています。木もありません。海苔乾しの時に影を作らないように、寺や神社以外にはほとんど木がありませんでした。

潮見橋は昭和8（1933）年に、現在の大森東と大森南地域の往来のためにかけられた橋です。船の往来のために中央がせりあがった形が特徴的で、絵画の素材に取り上げられることもありました。

写真が撮られた元日は海苔採りが休みだったので、このような風景を撮影することができました。この年の春、東京の海苔養殖の歴史が終わりました。この写真を撮影した元海苔生産者は、海苔採り最後の正月の風景をどのような思いで見つめていたのでしょうか。

この後、旧呑川は埋め立てられ、現在は下の写真のように旧呑川緑地として地域の人々の憩いの場となっています。

（五十嵐）

海苔のふるさと会
会員募集中!!

当館の活動を支援してくださる会員を募集中。会員には年6回、このニュースをお届けします。詳細は電話またはホームページにて。

特定非営利活動法人　海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」88号
令和4年10月1日発行
編集・発行　特定非営利活動法人　海苔のふるさと会
連絡先　東京都大田区
平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347

特定非営利活動法人　海苔のふるさと会　会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース89号

新年のご挨拶

海苔のふるさと会　理事長
中村　博

明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、館の発展のためご尽力いただいておりますこと、心から感謝申し上げます。

昨年は行動制限が緩和されたものの、感染の波が繰り返す状況がいまだ続いております。

ふるさと館は、感染症対策と活動の再開の間で頭を悩ませながらの一年間でした。緊急事態宣言の解除を受けて、段階的に三階や展示の利用を解除しました。休憩スペースが利用できるようになり、少しずつ以前のような和やかな雰囲気が戻ってきています。

イベントは人数制限や年齢制限などを講じた上で、ほとんどを再開しました。また、学校や団体の利用は、区内のみならず区外や都外からの利用も増えています。ボランティアのイベントの指導も再開し、少しずつ笑顔と交流が感じられるようになってきました。

しかし、OTAふれあいフェスタやのり祭りなど、大規模な外部イベントはまだ当館では実施されず、心待ちにする地域の声も届いています。

再びふるさと館に賑わいが戻り、人々が集う日々を目指して、引き続き皆で知恵を出し協力し合っていく所存です。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年はこんなニュースがありました！

―本年もよろしくお願い申し上げます―

2年連続！海苔採り

当館では、毎年冬に大森ふるさとの浜辺公園の砂浜に海苔網を設置し、海苔の生育観察をしています。昨年は、2年連続で海苔採りができる長さまで生長しました！採れた海苔の総量は約22kgで、令和2年度（5kg）を大きく上回る結果となりました。海苔は、はまどの会のメンバーと職員で乾海苔にした後、守矢武夫商店様にご協力いただき、焼き海苔に加工しました。

海苔網から長く垂れ下がる海苔や、それを手作業で採る様子も含めて、かつて大森の海でみられた光景に一歩近づくことができました。

館内一部利用制限解除

感染症対策のため、利用制限をしていたライブラリーや、3階展望室、天空ガーデンをご利用いただけるようになりました。3階展望室、天空ガーデンからは大森ふるさとの浜辺公園の海が見えます。素敵な景色と色とりどりの花々を移り変わる季節と共にお楽しみください。

また、2階展示室のハンズオンコーナーでは、パズルや投票チップなど利用できるものを増やしました。

各種イベントを再開

約2年間お休みしていたイベントのうち、幼児や低学年も参加できる「海藻おしばづくり」、「ひまわりプロジェクト～種まきの巻き～」、「七夕飾り」、「海苔つけ体験」などを再開しています。どのイベントも大盛況で、久しぶりに子どもたちの歓声で賑わっていました。

他にも「緑のカーテンを編もう」や「あみあみペットボトルホルダーづくり」など、感染状況を見ながら、少しずつイベントを再開しています。感染症対策に充分注意しつつ、皆さまが安全に楽しめるように努めてまいります。

60年前のお正月 ～昭和38年 大田区最後の海苔採り～

昭和37(1962)年12月、大田区を始めとした東京都内湾の漁業協同組合は、東京港の港湾整備のために漁業権放棄を受け入れる決断をしました。そして昭和38(1963)年春に最後の海苔採りをし、約300年に渡る大田区の長い海苔養殖の歴史に終わりを告げました。今からちょうど60年前のことです。

海苔採り最後の正月を生産者たちはどんな思いで迎えたのでしょうか。昭和38年のお正月をカメラで記録した海苔生産者がいました。その写真をご紹介します。（いずれも1月3～7日撮影）

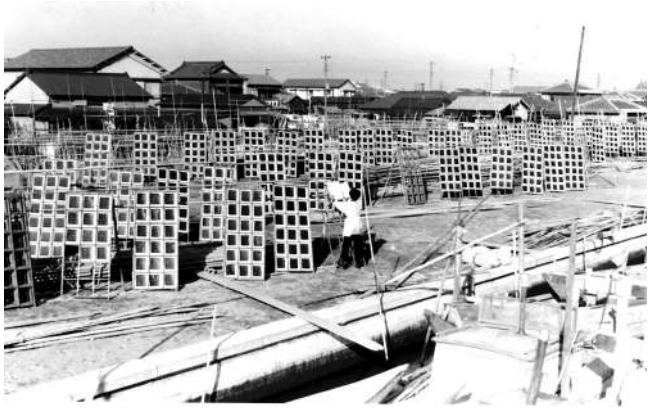
海苔船の背後の海は、現在の昭和島のあたりです。すでに首都高速道路と東京モノレールのための工事と埋立てが進んでいます。首都高速道路1号羽田線鈴ヶ森から空港区間は昭和39（1964）年8月2日、東京モノレールは同年9月17日に開通し、10月1日に東京オリンピックが開催されました。

左の写真は貴船堀にて出航する海苔船です。海苔採りをする人数分のベカブネを載せています。

右の写真は、採った海苔を洗い笊（ざる）に入れて汚れを洗い流しているところです。作業する仲間たちの姿を撮影したうちの一枚です。

採ってきた海苔を海苔船から河岸に揚げているところです。海水を含んだ生海苔のずっしりとした重みが伝わってきます。

チョッパーで海苔切りをしているところです。以前は包丁で海苔を切っていたため、作業に時間と手間がかかりました。このチョッパーはモーターが付いているので、海苔切り作業がとても楽になりました。



旧呑川の潮見橋から見える河岸の海苔乾し場の風景です。昼前に海苔がピリピリと音を鳴らして乾き始めると表に乾し返します。昼過ぎに乾いた海苔を枠から取り外しているところです。

海苔乾し場の前で子どもと記念撮影。笑顔の男性が一連の写真の撮影者です。

（五十嵐）

海苔のふるさと会 会員募集中!!

当館の活動を支援してくださる会員を募集中。会員には年6回、このニュースをお届けします。詳細は電話またはホームページにて。

特定非営利活動法人　海苔のふるさと会会報「大森 海苔のふるさと館ニュース」89号
令和5年1月1日発行
編集・発行　特定非営利活動法人　海苔のふるさと会
連絡先　東京都大田区
平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347

特定非営利活動法人　海苔のふるさと会　会報
大森 海苔のふるさと館 ニュース90号

浜辺に設置した海苔網の様子をご報告します！

大森 海苔のふるさと館では、かつて大森で行われていた海苔づくりの風景を再現するために、大森ふるさとの浜辺公園（以下、ふる浜）で竹ヒビや海苔網を設置しています。今回は、令和4年度のふる浜での海苔網の様子をご報告します。

【網張り】

令和4年12月17日（土）、木更津の海苔漁師の方から種付けした網を譲ってもらい、ふる浜に張り出しました。この時の海苔はまだ数ミリほど。はまどの会のメンバーとともに、昨年度のように海苔が長く生長するよう願って作業しました。

網張りの様子

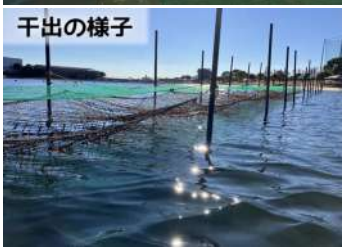
12月17日の海苔の様子

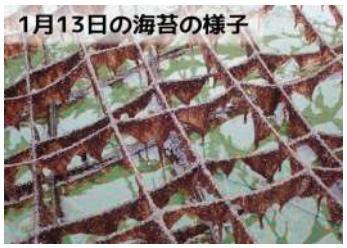
【海苔の生長の様子】

網張りの日は数ミリの長さでしたが、日が経つにつれて徐々に生長し、約1か月後には10cmほどの長さになりました。年明けには、6枚重ねの網を3枚ずつに展開し、昨年度に効果が見られた防鳥・防魚ネットを設置しました。さらに、海苔が丈夫に育つよう干出もしました。しかし、その後、海苔網の様子が変わり、海苔が少しずつ短くなり…。

展開と防鳥・防魚ネット張り

12月26日の海苔の様子


干出の様子


1月13日の海苔の様子

【海苔網観察会＆海苔採り】

令和5年1月22日（日）、昨年であれば海苔採りができる頃でしたが、残念ながら採れるほどの長さではありませんでした…。しかし、久しぶりに浜辺に元海苔生産者の方々をお呼びしたこともあり、海苔採りのやり方やコツについて実演を交えてお話ししていただくことができました。この時わずかに海苔採りができ、230gの海苔から3枚半の乾海苔を作ることができました。

オオバンが海苔網をついばむ姿をたびたび目撃したことから、海苔が短くなったのは鳥が食べているからではないか、ということで海苔網の両サイドを守るように防鳥ネットを横に張り、様子を見ることにしました。対策後、3～4日で効果があらわれたようで海苔が再び伸び始めていました。

1月22日の海苔の様子

両サイドに追加の防鳥ネット張り

【対策の結果は…】

2月4日（土）、今度こそ海苔採りができると思い網の近くへ行くと…、なんとまたすっかり食べられていました。わずかな海苔を摘みとり、やっとの思いで1枚の乾海苔を作りました。

2月4日の海苔の様子

海苔採りの様子

【まとめ】

昨年度はたびたび海苔採りができるほど生長したため、今年度も同様の方法を試みましたが、同じ結果にはなりませんでした。食害問題は現在の海苔養殖現場でも悩ましいことですが、毎年同じようにはいかない難しさを実感しました。おそらく、かつて大森で海苔養殖をされていた方々も自然相手の仕事に苦労されていたことでしょう。この大森の海は、鳥が食べたくなるほどおいしい海苔が育つところなのだと前向きに考え、来年度もみなさまに海苔養殖風景の再現展示をご覧いただけるよう精進します！（滝本）

海苔養殖風景の再現展示

海苔の入札のいまとむかし

海苔の旬は冬！このシーズン中、生産地は大忙しです。海苔の収穫が行われ、日本各地で海苔の共販（共同販売）が行なわれています。共販とは入札の一種で、海苔を各県の漁連（漁業協同組合連合会）などが一か所に集荷して入札することです。共販に参加できるのは漁連などが指定した指定商社です。指定商社は落札した海苔を海苔問屋やデパート、スーパーなどの小売店、寿司屋などに卸します。

海苔の一大生産地であった大森の海苔の入札について、その歴史と現在の様子をみていきましょう。

①庭先入札

庭先入札は江戸時代から昭和28年頃まで続いた入札方法です。海苔の季節になると、大森の仲買問屋が乾海苔を買い集めました。数軒の問屋がグループで生産者を周り、その日に乾し上がった海苔を値踏みして、入札札（ふだ）と呼ばれる紙片に各自が購入希望金額を記入します。グループの中で一番高い金額を記入した仲買人が落札しました。

②共販制のはじまり

大森では昭和28年から漁業協同組合に海苔を集めて一律に入札する共販制を導入しました。当時はお椀子と呼ぶ黒塗りの円板に入札値をチョークで書いて投票していました。

大森漁業協同組合に届いた海苔を確認している様子

次回の入札日とその日の海苔1帖（10枚）の最高値を記載

③現在の共販

現在は各県の漁連で共販が行われています。海苔は入札前に漁連の検査員が品質検査を行い、品質による等級が付けられます。共販には漁連の指定商社が参加し、各商社は見付けで実際に乾海苔を手に取って品質を見極め、等級を目安に入札を行います。なお、生産者が違っていても同じ等級はまとめて入札され、数十箱から数百箱単位で扱われます。一箱は3,600枚入りです。

平成31年（2019）大森本場乾海苔問屋協同組合入札の様子

一方、大森の入札は通常の方法とは大きく異なります。大森では現在海苔の生産をしていませんが、大森本場乾海苔問屋協同組合で神奈川県の共販を行います。入札に参加する商社は大森本場乾海苔問屋協同組合や神奈川県の問屋組合に加盟する問屋です。一箱（一本という）単位の入札なので、小規模の問屋でも参加できます。大森では検査員による等級付けがなく、未等級のまま問屋自らの見立てで値段がつけられ競り落とされるため、問屋自身で品質を見極める必要があります。大森ではこうしたやり方が根付いているため、大森の問屋は卓越した目利き、味利きの技を受け継いでいます。

（牧野）

特定非営利活動法人　海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」90号
令和5年3月1日発行
編集・発行　特定非営利活動法人　海苔のふるさと会
連絡先　東京都大田区
平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347

海苔のふるさと会 会員募集中!!

当館の活動を支援してくださる会員を募集中。
会員には年6回、このニュースをお届けします。
詳細は電話またはホームページにて。